

クラスだより

わらべうた



一年を通してたくさんわらべうたを日々うたってきて子どもたちの力に驚かれています。まだまだ小さいみみれぐみですが、何曲もうたを覚えていて、はなをして「この曲うたって」と伝えてくれます。

おしゃりをポンポン^(=こないだら)→「どんぐりころかんの」
足のゆびをさわる^(=から)→「さくすけさん♪」
ひざのうえにすくわたら→「あさわりやすむ」
腰をかがめて歩いたら→「おじいさんかばあさん」
「おうちごもうたで」と教えてます!とよくことを教える
わらべうたが子どもたちの日常にならっているのを感じます。

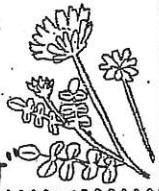
「す、こんなにこんなのがめんどくさい」と
今まで木にうたってもうう二ヶ多か、下
唇から、自然下さううたう音が増えてきました。
ハイハイ時、子供は遠回りで手をつないで
「さよならあんこもち またさよなよ」と。
「たんぽぽ」
たんぽぽ

あじさい、ひまわり組は毎月わらべうたの課業があります。いつも通じてている曲、数曲に新曲をくわえて遊びます。先月は「からすかずの」の曲にあわせて、おしゃりをしていて、彼女(=ひ)をして、「いちわのからすかず」の門へぐり遊びをしました。この一年で、友だちと声をあわせる楽しさや、くり返し通じていく、おもしろさを感じてくれた子どもたち、卒園してもわらべうたを楽しんで欲しいと思います。

あじさい

ひまわり

大人と言葉でのやりとりが成立するようになりますことで、わらべうたでも大人と問答のやりとりをしてから楽しめます。『かごかごじゅうくもん』といいうたでは「深い川」「浅い川」とどちらか選ぶことでその後の動きが変わります。「深い川? 浅い川? どちらがいい?」と聞くと「深い!」などと返してきてくれます。言葉がたくさん出るようになりますことで、うたの歌詞も覚えてうたえるようになってきます。家庭でも、聞き覚えがないうたを口ずさんでいたら、わらべうたでそれいけ



こすもす組さんは、わらべうたが大好きです。『いしのなかの』のうたでは、積み木や本物の石をたたきながら歌っています。最近の子どもたちのお気に入りには『ゆうびんはいたつえーさ』であります。歌いながら歩き、そくてつを届けてくれて、楽しんでいますよ。



りんご組では、落ちついている午睡ありやおやつ後などに、おひざの上で抱っこしながら手指のあそび、やらしめるひのわらべうたをしてます。『もとやせて!』と、左から右へ左、また右…と、心地よく感じたり、樂しくなります。同じことをお人形にしてあります子も多いです。大人になってくれたのもします。而を持てると、わくわくと飛ばすみたいに、ううう~、笑ひながらお友達と一緒に樂しい琴がかかるらしいです。

りんご